

## 第14回昴コンサート 歌詞曲目解説

ワクワク 谷川俊太郎 作詩 信長貴富 作曲

東日本大震災の被災者にエールを送ろうと取り組まれたプロジェクトで作られた作品の一つ。ポップスを意識したスタイルで描かれていますが、何気ない日常の延長にこそ復興があるという作者の思いが込められています。

タネまけば芽が出るさ 芽が出れば花が咲く  
花が咲きゃ実がなるよ 実がなればタネになる  
ワクワク ワクワク

腹がへりゃ飯を食う 飯を食や眠くなる  
昼寝すりゃ夢をみる 夢をみりゃ目がさめる  
ワクワク ワクワク

腹が立ちゃけんかする けんかすりゃなぐられる  
なぐられりゃけつとばす けつとばしやすつとする  
ワクワク ワクワク

働けば汗をかく 汗をかきゃ風呂入る  
風呂入りゃひげをそる ひげをそりゃいい男  
ワクワク ワクワク

恋をすりゃ手紙書く 手紙書きゃ返事くる  
返事くりゃデートする デートすりゃキッスする  
ワクワク ワクワク

哀しけりゃよっぱらう よっぱらや歌うたう  
歌うたや泣けてくる 泣けてくりゃ笑っちゃう  
ワクワク ワクワク

歌謡デラックス 石若雅弥 編曲

歌は世に連れ世は歌に連れ・・・昭和から平成にかけて、ささやかな幸せを求め、汗水流して働いた庶民の心を、癒やしながさめてきた、懐かしい歌謡曲や演歌の大ヒット曲たちです。

北酒場 なかにし礼 作詞 中村泰士 作曲

北の酒場通りには  
長い髪の女が似合う  
ちょっと お人よしがいい  
くどかれ上手な方がいい  
※ 今夜の恋は 煙草の先に  
火をつけて くれた人  
からめた指が 運命のように  
心を許す  
北の酒場通りには  
女を酔わせる恋がある

北の酒場通りには  
涙もろい男が似合う  
ちょっと 女好きがいい  
腫でくどける方がいい  
夢追い人は グラスの酒と  
思い出を 飲みほして  
やぶれた恋の 数だけ人に  
やさしくできる  
北の酒場通りには  
男を泣かせる歌がある  
※ くりかえし  
男を泣かせる歌がある

津軽海峡・冬景色 阿久悠 作詞 三木たかし 作曲

上野発の夜行列車 おりたときから  
青森駅は 雪の中  
北へ帰る人の群れは 誰も無口で  
海鳴りだけを きいている  
私もひとり 連絡船に乗り  
こごえそうな鷗見つめ 泣いていました  
ああ 津軽海峡・冬景色

ごらんあれが竜飛岬 北のはずれと  
見知らぬ人が 指をさす  
息でくもる窓のガラス ふいてみたけど  
はるかにかすみ 見えるだけ  
※ さよならあなた 私は帰ります  
風の音が胸をゆする 泣けとばかりに  
ああ 津軽海峡・冬景色  
※ くりかえし

## 喝采

吉田旺 作詞 中村泰士 作曲

いつものように 幕が開き  
恋の歌 うたう私に  
届いた報せは 黒いふち取りがありました  
あれは三年前 止めるあなた駅に残し  
動き始めた汽車に ひとり飛び乗った  
ひなびた町の 昼下がり  
教会の前にたたずみ  
喪服の私は 祈る言葉さえ失くしてた

つたがからまる 白いカベ  
細いかけ 長く落として  
ひとりの私は こぼす涙さえ忘れてた  
暗い待合室 話すひともない私の  
耳に私のうたが 通りすぎてゆく  
いつものように 幕が開く  
降りそそぐ ライトのその中  
それでも私は 今日も恋の歌 うたってる

## 雨の慕情

阿久悠 作詞 浜圭介 作曲

心が忘れたあの人を  
膝が重さを覚えてる  
長い月日の膝まくら  
煙草プカリとふかしてた  
憎い 恋しい 憎い 恋しい  
めぐりめぐって 今は恋しい  
※雨雨ふれふれ もっとふれ  
私のいいひと つれて来い  
雨雨ふれふれ もっとふれ  
私のいいひと つれて来い

一人で覚えた手料理を  
なぜか味見をさせたくて  
すきまだらけのテーブルを  
皿でうすめている私  
きらい 逢いたい きらい 逢いたい  
くもり空なら いつも逢いたい  
※ くりかえし

## さそり座の女

斉藤律子 作詞 中川博之 作曲

いいえ私は さそり座の女  
お気のすむまで 笑うがいいわ  
あなたはあそびの つもりでも  
地獄のはてまで ついて行く  
思いこんだら いのち いのち いのちがけよ  
そうよ 私はさそり座の女  
さそりの星は 一途な星よ

いいえ私は さそり座の女  
お気の毒さま 笑うがいいわ  
女のこころを 知らないで  
だまして汚して傷つけた  
ばかな男は あなた あなた あなたなのよ  
そうよ私は さそり座の女  
さそりの毒は あとで効くのよ

紅茶がさめるわ さあどうぞ  
それには毒など 入れないわ  
つよがり言っても おんな おんな おんななのよ  
そうよ私は さそり座の女  
さそりの星は 一途な星よ

## きよしのズンドコ節

松井由利夫 作詞 水森英夫 作曲

ズンズンズン ズンドコ  
ズンズンズン ズンドコ  
風に吹かれて 花が散る  
雨に濡れても 花が散る  
咲いた花なら いつか散る  
おなじさだめの 恋の花  
向こう横丁の ラーメン屋  
赤いあの娘の チャイナ服  
そっと目くばせ チャーシューを  
いつもおまけに 2・3枚  
ズンズンズン ズンドコ  
ズンズンズン ズンドコ

明日 明後日 明々後日  
変わる心の 風車  
胸に涙が あふれても  
顔にや出せない 男なら  
角のガソリンスタンドの  
オイルまみれの お下げ髪  
なぜかまぶしい 糸切り歯  
こぼれエクボが 気にかかる

辛いときでも 泣き言は  
口を結んで 一文字  
いつか必ず 故郷へ  
錦かざって 帰るから  
守り袋を 抱きしめて  
お国訛りで 歌うのさ  
西の空見て 呼んでみる  
遠くやさしい お母さん  
ズンズンズン ズンドコ  
ズンズンズン ズンドコ

## ヒロシマ 母の思い語り継ぐ

千秋昌弘 作詞 森 二三 作曲

“愛と平和の歌い人”として精力的に活動している昴の団長 千秋昌弘 の渾身の創作曲。

日本人にとっても記憶が薄れつつあるヒロシマの悲劇、ウクライナで核兵器使用の危機が迫っている今だからこそ、切実な問題として胸に迫ってきます。

当団で伴奏をお願いしているピアニストの森二三が作曲しました。

母は突然怒り出した  
大きな声が  
原爆資料館に 響き渡った  
「こがあなもんじゃねー」  
「こがあなもんじゃねー」

原爆のその日  
母は 広島のを  
死体を踏み越え 姉と歩いた  
一瞬にして 街は焼かれ 溶かされ  
色まで奪われ 黒い雨が

呻き声  
「ミス」「ミスヲ」「ミズを」  
顔が 顔でない  
ハエが たかる 匂い  
川にも 死体が浮き沈む  
「あがあなもんじゃねえー」  
「あがあなもんじゃねえー」  
「本当のこと 伝わりゃ  
原爆 作らんごつなるにいー」  
私は 私は  
母の思いを 語り継いで行く

## 種子 (たね)

寺山修司 作詩 信長貴富 作曲

「寺山修司の詩による 6 つの歌《思い出すために》」の終曲。

短調から長調に転調し熱く歌われるクライマックスと、そんな中にも滲む孤独の闇……。  
ピュアで繊細な寺山修司の世界が広がります。

きみは 荒れはてた土地にでも  
種子 (たね) をまくことができるか？

きみは 花の咲かない故郷の渚にでも  
種子をまくことができるか？

きみは 流れる水のなかにでも  
種子をまくことができるか？

たとえ 世界の終わりが明日だとしても  
種子をまくことができるか？

恋人よ  
種子はわが愛

## 地底のうた

荒木栄 作詞・作曲

この歌は、今から64年前、1959年から始まった「三池闘争」を歌っています。この闘いには全国から延べ10万人もの労働者が支援にかけつけ、日本の労働運動史上に残る闘いだっただろうです。

「地底のうた」は、荒木栄によって、282日に及んだ三池闘争現場の生々しい声を集めて作られた曲です。

この歌が創られてから62年が経ちます。70年代80年代には高度経済成長の時代がありました。しかし90年代半ばから日本の経済成長は停滞し続け、貧富の拡大が進み続けました。長時間労働・低賃金がまん延、国民の平均所得は下がり続け、近隣の韓国・台湾にも追い越され、弱者が生きにくい社会となっています。

この歌は今の私たちに、どう生きるかを問いかけているのではないのでしょうか。今を生きる私たちの 明日へのエネルギーとなるように、歌いあげたいと思います。

### <序章>

有明の海の底深く 地底に挑む男達  
働く者の火を掲げ 豊かな明日と平和のために  
たたかい続ける 革命の前衛 炭鉱労働者

### <第1章>

眠った坊やの膨らんだ 頬をつついて表に出れば  
夜の空気の冷え冷えと 朝の近さを告げている  
ご安全にと妻の声 渡す弁当のぬくもりには  
つらい差別に負けるなと 心を込めた同志愛

夜は暗く壁は厚い  
だけれど俺たちじゃ負けないぞ  
職制のおどかし恐れんぞ  
あのでっかい闘いで  
会社やポリ公や 裁判所や暴力団と  
男も女も 子どもも年寄りも  
「がんばろう」の歌を武器に スクラムを武器に  
闘い続けたことを 忘れんぞ

夜の社宅の眠りの中から  
あっちこっちから やってくる仲間  
悲しみも喜びも 分け合う仲間  
闇の中でも 心は通う  
地底に続く闘いめざし  
今日も切羽へ 一番方出勤

### <第2章>

崩れる炭壁 ほこりは舞い 汗はあふれ  
担ぐ抗木 肩は破れ 血は滴る  
ドリルはうなり 流れるコンベア 柱はきしむ  
独占資本の合理化と 命をかけた闘いは 夜も昼も

暗い坑道 地熱に焼け 漂うガス  
岩の間からしたたる水 頬をぬらし  
カッターはわめき 飛び去る炭車  
岩盤きしむ

「落盤だァー」

「埋まったぞー」

米日反動の搾取と 命をかけた闘いが  
夜も昼も続く

### <第3章>

落盤で殺された友の 変わり果てた姿  
狂おしく取りすぎる 奥さんの悲しみ  
幼子は何にも知らず 背中で眠る  
胸突き上げるこの怒り この怒り

ピケでは刺し殺され  
落盤では押しつぶされ  
炭車のレールを 血で染めた仲間  
労働強化と保安のサボで  
次々に 仲間のいのちが奪われていく  
奪った奴は誰だ 「三井独占！」  
殺した奴は誰だ 「アメリカ帝国主義！！」  
奪った奴を殺した奴を 許さないぞ  
断じて許さないぞ

### <第4章>

1.  
俺たちは栄えある 三池炭鉱労働者  
団結の絆 さらに強く  
真実の敵打ち砕く 力に満ちた闘いを  
足取り高く進めよう
2.  
俺たちは栄えある 三池炭鉱労働者  
スクラムを捨てた仲間 憎まず  
真実の敵打ち砕く 自信に満ちた闘いの  
手を差し伸べよう 呼びかけよう
3.  
俺たちは栄えある 三池炭鉱労働者  
弾圧を恐れぬ 不敵の心  
真実の敵打ち砕く 勇気に満ちた闘いで  
平和の砦固めよう 固めよう

# ありがとうのうた

リピート山中 作詞作曲

ありがたいなあ・・・、ホントにありがたいことだなあ・・・と、心底思いながら感謝の気持ちを込めて誰かに『ありがとう』と言ったことが、あなたには何回ありますか？僕は両親に向かって『ありがとう』なんて照れ臭くて、いい歳になるまで言ったことが無かった。

でも、結婚して子どもができ、親と子の立場を両方経験するうち『親の愛のありがたさ』『子の存在のありがたさ』を素直に感じるようになった。以来『ありがとう』という言葉に心がこもるようになり、作った歌が『ありがとうのうた』です。面と向かって言いにくい感謝の気持ちも、歌でなら伝えられます。

文：リピート山中

1. 上を向いてごらん 夕焼けが赤いよ  
横を向いてごらん 父さんも赤いよ  
みんな赤い 美しい  
夕焼けの空の下で  
※君に逢えて良かったよ  
生まれてきてくれて ありがとう
2. 思い出してごらん 君の空青いよ  
思い出してごらん 君の海青いよ  
みんな青い 美しい  
素直な心になれたね  
※くりかえし
3. 手をつないでごらん ぬくもり伝わるよ  
手をつないでごらん やさしさ伝わるよ  
人は弱い だけど強い  
たとえ世界 終わる日でも  
※くりかえし
4. 息を吸ってごらん それが生きることさ  
お腹すけば食べる それが生きてることさ  
生きて生きて 生きて生きて  
君の全て朽ちるまで  
※くりかえし
5. 上を向いて見たら 夕焼けが赤いよ  
前を向いて見たら 母さんも赤いよ  
みんな赤い 美しい  
夕焼けの空の下で  
あなたの子どもで良かったよ  
産んでくれて ありがとう  
育ててくれて ありがとう

## 最上川舟唄

山形民謡

昭和11年にNHKの企画で作曲された船唄・船頭歌。山形県各地の舟唄や民謡を原曲とし最上川の船頭の掛け声に基づいています。伝統的なものでなく新民謡（創作民謡）の一つです。

ヨーエサノマカーショー エンーヤコラマーカセ  
ヨーエサノマカーショー オーオーオー

エーエンヤーエーエエ ヤアア エーエエエー  
エーエーエー ヤアア エードー  
ヨーエサノマカーショー エンーヤコラマーカセー

酒田さ行くさげ 達者(まめ)でろちゃ  
アーヨイトコラアサノーセ  
流行(はやり)風邪など ひかねよおに

エーエンヤーエーエエ ヤアア エーエエエー  
エーエーエー ヤアア エードー  
ヨーエサノマカーショー エンーヤコラマーカセー

まっかん大根の塩汁煮(しょっちるに)  
しお しょっぱくて食らわんネ チャア  
エーエエ ヤーエーエエエー  
エーエーエー ヤアア エードー

ヨーエサノマカーショー エンーヤコラマーカセ  
ヨーエサノマカーショー オーオーオー

エーエンヤーエーエエ ヤアア エーエエエー  
エーエーエー ヤアア エードー  
ヨーエサノマカーショー エンーヤコラマーカセー

山背風だよ あきらめしゃんせ  
アーヨイトコラアサノーセ  
俺をうらむな 風うらめ  
エーエンヤーエーエエ ヤアア エエエエ  
エーエーエ ヤアア エードー  
ヨーエサノマカーショー エンーヤコラマーカセ

あのこのためだ なんぼとつても  
たらんこたんだア  
エーエエ ヤーエーエエエー  
エーエーエー ヤアア エードー

ヨーエサノマカーショー エンーヤコラマーカセ  
ヨーエサノマカーショー オーオーオー

## 歓びのナーダム

巴音吉日嘎拉 作詞 本並美德 日本語詞

モンゴル・中国の内モンゴル各地で行われる国民的なお祭りナーダム。最大のものは7月に首都ウランバートルで3日間開催され、相撲、競馬、弓射等が行われます。この歌では、モンゴル民族の一体感を高めるお祭りの賑わいや活気が間近に感じられます。

ナーダムだ ナーダムだ モンゴルの夏は  
ナーダムに 燃えるよ ホッポー  
男も女も 互いに出会える

ナーダム祭りだよ ホッホー ホッホー  
胸は躍るよ ナーダム  
広い草原は 山あり谷あり  
荒馬の背に若者 空駆け川飛び越え  
勝了 勝了 漂亮 漂亮  
(ションラ ションラ ピャوران ピャوران)  
勝了 勝了 漂亮 漂亮  
ハイハイハイ ハイハイハイ……

ナーダムだ ナーダムだ モンゴルの夏は  
ナーダムに 燃えるよ ホッホー  
男も女も 恋する季節は  
ナーダム祭りだよ ホッホー ホッホー  
胸は躍るよ ナーダム  
広い草原は 溢れる人波  
真中に向き合う 二人の若者  
はっけよい はっけよい のこった のこった  
はっけよい はっけよい のこった のこった  
ハイハイハイ ハイハイハイ……

豊かな故郷 全ての者達の  
しあわせ続けと ナーダムの祭りを  
歓び 称えよ 歓び 歌えよ  
歌おう 歌おう アー

## 鶴

R. ガムザートフ 作詞 坂山やす子 訳詞  
Y. フレンケリ 作曲 I. リツベンコ 編曲

広島で聞いた千羽鶴の話に感銘を受けた旧ソ連の詩人ガムザートフが、戦争で亡くなった兵士に思いを寄せて作った詩に作曲された作品で、人々の心に深く染み入る曲として世界的に歌われています。

アアアアア・・・  
私はふと思う 傷つき還らぬ兵士ら  
異国の土に眠り いつしか白い鶴に  
鶴は昔から今も 訪れては声伝う  
それ故かいつも切なく 声もなく空見守る

アアアアア・・・  
日暮れの霧の空を 疲れた渡り鳥飛ぶ  
あの列の中の隙間は もしや私のために  
やがて鶴の群れとなり  
青い夕もやを飛び立とう  
大空へ鶴の言葉で 世の人々偲びつつ  
アアアアア・・・

私はふと思う 傷つき還らぬ兵士ら  
異国の土に眠り いつしか白い鶴に  
アアアアア・・・

## キエフの鳥の歌

ウクライナ民謡  
木内宏治 日本語詞

北海道合唱団がウクライナのキエフ（キーウ）を訪れたとき演奏された原曲を日本に持ち帰った作品。ウクライナでは伝説の鳥が、村々を訪れて幸せをもたらす言い伝えがあります。今すぐこの鳥がウクライナに戻って来ることを願うものです。

はてなき空の彼方 愛しい鳥は飛ぶ  
丘に一人たたずみ 過ぎにし日を思う  
心にしみる鳥の声 白鳥よ鶴よ  
優しき人は今いずこ 教えておくれ  
アアア・・・・

夜霧に沈む森よ ほの暗き谷間よ  
うたごえ川面を行く わが思いを乗せて  
鶴のうたごえによせて 届けよ愛の歌  
優しき人は今いずこ 教えておくれ  
優しき人は今いずこ 教えておくれ アー

## フィンランディア

シベリウス 作曲  
関 忠亮 訳詞

フィンランドの作曲家シベリウスの交響詩「フィンランディア」から、1941年に歌詞がつけられ、シベリウス本人が合唱用に編曲した作品です。当時スターリンが支配するソ連の露骨な侵略で国家存亡の危機にあったフィンランドの人々を奮い立たせる歌となりました。

七つの海越えひびけ 遥かの国の人へ  
故郷（ふるさと）の野に歌える 私の希望こそ  
世界の隅まで同じ 平和へのうたごえ

青き空の色 深く 木立も草も光る  
わが祖国よ若者よ 他国の山もまた  
同じ光に映えるを とともに願い歌え

平和と自由のうたよ 響け あー

## フニクリ・フニクラ

Luigi Denza 作曲 青木爽&清野協 訳詞  
山室紘一 編曲

1880年にできたヴェスヴィオ山登山鉄道の  
宣伝のために作られた曲で、世界最古のCMソ  
ングとも言われています。日本ではNHK「みんな  
のうた」で放送され、広く歌われるようになりま  
した。

赤い火を噴くあの山へ 登ろう登ろう  
そこは地獄の釜の中 覗こう覗こう  
登山電車ができたので 誰でも登れる  
流れるけむりは招くよ みんなをみんなを  
行こう行こう 火の山へ  
行こう行こう 火の山へ  
フニクリフニクラ  
フニクリフニクラ  
誰も乗る フニクリフニクラ  
行こう行こう 火の山へ  
行こう行こう 火の山へ  
誰も乗る フニクリフニクラ

暗い夜空に赤々と 見えるよ見えるよ  
あれは火の山ヴェスピアス 火の山火の山  
登山電車が降りてくる ふもとへふもとへ  
燃える炎は空に映え 輝く輝く  
行こう行こう 火の山へ  
行こう行こう 火の山へ  
フニクリフニクラ  
フニクリフニクラ  
誰も乗る フニクリフニクラ

Jammo, jammo, 'ncoppa, jammo ja',  
Jammo, jammo, 'ncoppa, jammo ja',  
funiculì, funiculà! funiculì, funiculà!  
'ncoppa, jammo ja', funiculì, funiculà!

## 氷の心 (映画「アナと雪の女王」より)

Kristen Anderson-Lopez/Robert Lopez 作詞作曲  
高橋知伽江 日本語詞

自然の圧倒的な力は人に豊かさをもたらす反面、  
時には命をも奪う非情さも併せ持っています。人  
の力を越えた自然に対してあるがままに生きるこ  
とは……。

単なるアニメとして楽しむだけでなく、“氷の  
心”に込められた深い意味にも触れてみたいもの  
です。

木枯らし吹けば 川さえ凍る  
切り出せ掘り出せ 氷の心を  
清らかで固い 氷求めて  
深く切り込め 引き上げろ 力合わせ  
(掛け声) うむ おう 気をつけろ あげろ

いくぞ おう 気をつけろ あげろ  
美しい パワフル あぶない そうだ  
氷の持つ力  
魔法のカ とても強くて  
誰にも支配できないぞ

木枯らし吹けば 川さえ凍る  
切り出せ掘り出せ 氷の心を  
きれいで固い 氷求めて  
深く切り込めよ 引き上げろ 力合わせ

## 川の流れるように

秋元 康 作詞 見岳 章 作曲

美空ひばり最大のヒット曲。日本の歌百選に  
選定されており、1997年にNHKが実施した  
「二十世紀の日本人を感動させた歌」の人気  
投票でも1700万票余で第一位に選ばれまし  
た。美空ひばり自身の人生とも重なる歌詞は、  
多くの人に親しまれ広く歌われています。

知らず知らず歩いてきた  
細く長いこの道  
振り返ればはるか遠く  
故郷が見える  
でこぼこ道や 曲がりくねった道  
地図さえない それもまた人生  
ああ 川の流れるように  
ゆるやかに いくつも時代は過ぎて  
ああ川の流れるように  
止めどなく 空が黄昏に染まるだけ

生きることは旅すること  
終わりのないこの道  
愛する人そばに連れて  
夢探しながら  
雨に降られて ぬかるんだ道でも  
いつかはまた 晴れる日が来るから  
ああ 川の流れるように  
穏やかに この身を任せていたい  
ああ 川の流れるように  
移りゆく季節 雪解けを待ちながら

ああ川の流れるように  
穏やかに この身を任せていたい  
ああ 川の流れるように  
いつまでも 青いせせらぎを聞きながら

昂とは牡牛座のプレアデス星団のことですが、この作品では何を言おうとしているのでしょうか。いろんな解釈がありますが、石川啄木や宮沢賢治の影響も指摘されています。“さらば昂よ…”に込められた意味を探りながら、みんなで歌い続けられるのも、男声合唱団 昂 の大きな魅力です。

目を閉じて何も見えず  
哀しくて目を開ければ  
荒野に向かう道より  
他に見えるものはなし  
ああ 砕け散る 宿命(さだめ)の星たちよ  
せめて密やかに この身を照らせよ  
我は行く 蒼白き頬のままで  
我は行く さらば昂よ  
アアア・・・

呼吸(いき)をすれば胸の中  
凧(こがらし)は吠(な)き続ける  
されどわが胸は熱く  
夢を追いつけるなり  
ああ さんざめく 名も無き星たちよ  
せめて鮮やかに その身を終われよ  
我も行く 心の命するまに  
我も行く さらば昂よ  
アアア・・・

ああ いつの日か 誰かがこの道を  
ああ いつの日か 誰かがこの道を  
我は行く 蒼白き頬のままで  
我は行く さらば昂よ  
我は行く さらば昂よ

## 一人一人の命が輝く平和な世界を 今すぐに！

21世紀には豊かな日本と平和な世界が実現するかも…、そんな淡い期待はもろくも崩れ去ってしまいました。

- 「地底のうた」の世界は、今では遠い昔の出来事ではありません。でも当時そこで命をかけて闘った人々の姿は、今の私たちにどう生きるかを問いかけているのではないのでしょうか

豊かで便利な“もの”に囲まれた今の生活、でも本当の幸せはやってきたでしょうか。多くの庶民にとっては非正規労働や格差の拡大で明日が見えない不安定な暮らし、全てが自己責任とされるギスギスした社会、人類の未来を脅かす温暖化など人間の手による終わりのない環境破壊。そんな社会を望んでいたのではないはずなのに…。

- 前回のコンサートで「ウクライナに平和を！」と歌った同じ歌を、今回もまた歌わなければならないとは…無力を感じ悲しい限りです。

大国による公然とした侵略、原発への攻撃や核兵器使用の危機、防衛のためとはいいいながら世界を二分する対立の激化や軍事同盟・軍拡の進展…。人間は歴史に学ばないのでしょうか。

今回、私たちの平和への熱い思いを、次の4曲「ヒロシマ 母の思い語り継ぐ」「鶴」「キエフの鳥の歌」「フィンランディア」に心を込めて歌います。

- 取りあえず今自分は大丈夫と、つい安心して隣の人のことを忘れてしまいます。明日のことは考えなくても平穩に日々が過ぎていきます。でも日々の小さな変化に気づかないうちに、世の中は引き返せない状況になりつつあるのではないのでしょうか。気づいたときはもう遅い！

そうならないよう、小さな力を小さな声を寄せあつて、明日のために希望を持って歌い続けようではありませんか。

## いのち輝け ひたむきに平和を！

男声合唱団 昂